令和元年６月

青　藍　会　会　報

第 93 号

徳島大学医学部医学科同窓会

一期一会

徳島大学大学院医歯薬学研究部
生殖・更年期医療学分野
教授　安井　敏之

夏鳥の代表格，キビタキです。若葉が一番似合う野鳥だとおもいます。

撮影　笠井謙二（医学部22期）

青藍会総会開催のご案内

日　時：令和元年7月15日（海の日）10時30分～16時30分

場　所：青藍会館大会議室

1　議　事

2　懇親会

3　青藍会賞受賞者学術講演

四国こどもとおとなの医療センター循環器内科
原　　知　也　先生　（医学部56期）
演題「動脈硬化に対するPAR-2受容体の役割の検討」
座長　赤　池　雅　史　先生

4　学術講演

新潟大学大学院医歯学総合研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野教授
堀　井　　新　先生　（医学部35期）
演題「ICD-11 収載めまい疾患「持続性知覚性姿勢誘発めまい」について」
座長　荒　瀬　誠　治　先生

広島大学大学院医歯薬保健学研究科医学講座救急集中治療医学教授
志　馬　伸　朗　先生　（医学部34期）
演題「曲がりくねったcritical careの道を行く」
座長　田　中　克　哉　先生

徳島大学国際センター国際協力部門特任教授
内　藤　　毅　先生　（医学部27期）
演題「私が経験した国際医療協力」
座長　玉　置　俊　晃　先生

※昼食を兼ねた懇親会を開催いたします。
時間：12：30～14：15
場所：青藍会館2階（旧レストランエルボ）
会費：3000円

巻　頭　言

通　底　音

青藍会副会長
荒　瀬　誠　治（医学部20期）

東北大震災に寄せて

第２次大戦後，最も多くの死者，行方不明者（約２万人）をだした東北の惨事から８年が過ぎました。昨秋に放映の原発周辺地域を埋め尽くす黄色い野草，うろつく野犬，等々の姿は衝撃的で，未だに続く震災・原発事故の現実を自覚させます。改めて被災された皆様に心よりの見舞いと，被災地の医療者の皆様にエールを送ります。あの日以来，私の文は津波/原発事故への思いで始めようと決め，今も三宅由佳莉３等海曹の歌（stand alone）を聴きながら書いています。

音の記憶

私は物事の節目を音楽と共に心に刻んできました。若き頃は Mireille Mathieu，Brenda Lee，Beatles，研ナオコ，Nana Mouskouri らの歌と Astor Piazzolla が，ドイツ留学時代は Ravel の Bolero が頼りでした。皮膚科長就任時は五輪真弓（Wind and Roses）と R. Stewart（Sailing）が，その後の教授時代は Kiri Te Kanawa（Maori songs），さだまさし（風に立つライオン），Pablo Casals らが支え，東北大惨事の時は Angela Aki（母なる大地）と Fauré（Requiem）をじっと聞いていました。武田克之先生の逝去時は Bob Dylan の Blowing in the Wind が吹き荒れましたが，Celtic Woman の You raise me up が counter song となりました。これらの音と共に甦るのはその頃の自分の全てで，その時の境遇/感覚/反応/思い/行動と結果，嬉しさ，後悔や反省，等々が瞬間的に浮かびます。時には心が苦しくなることすらありますが，成功体験と喜びが甦ることも多く，自分の生き方を支える基礎となっています。

目の記憶も実は

目を通しての情報も浴びるほど得てきました。生活の根底には辻邦夫（パリ手記），谷沢永一（紙礫），須賀敦子（ミラノ霧の風景）が，医学研究には近藤宗平（分子放射線生物研究）が横たわっていました。なんでもできると思い込んでいた若き頃に，そうはいかんよ！ということを，はっきりと示してくれた激しい本でした。４人の声を直に聞いたこともあり，読むたびに作者の声が聞こえます。

耳（音）の物語

「出発時には君の持てる力の全てを！」が最初の言葉で，「ほんまにようやったなあ」が別れの言葉でした。若い頃，自分の予測・仮説を証明するため，培養細胞に紫外線を当て続けた僕への，最も認められたかった人からの言葉です。

生まれつき太陽光に弱く，小学時代より顔に皮膚癌が出た児は言葉を持たなかった。局所麻酔

での手術時も暴れることなく，アーウーと言いながら僕の術衣を握り続けてくれた。僕は確かに彼の思いを耳の震えで受け取った。

「野茂のフォークにバチっと合わせる野球センスと同様に，皮膚科医にはセンスが最も大切と思う」との，身も蓋も無い言葉がグサっと刺さりました。僕は皮膚科医のセンスを磨き続けたつもりです。その過程で，患者と一緒になって病気と闘うため勉強/仕事をすることは楽しい！に辿り着きました。

３才児の左耳下にあった薄赤い環状紅斑が，年を追って拡大し側頭部に丸い線状の脱毛巣を作った。9才時にやっと撮れたCTで脱毛巣内の皮下脂肪消失が判明，紅斑の辺縁（炎症の最前線）で脂肪織炎による脱毛が起こり，その内側の脂肪が萎縮したのだ。医師として手が打てる状況になるまでの６年間，彼と家族は大阪から通ってくれた。僕と彼らの間を繋いでいたものは，あやふやなことは絶対に言わず，ストレートに向き合うために使ったお互いの言葉だったと思う。

昭和時代，大学皮膚科の言語はドイツ（古）語で，患者を前にして指導者から１対１の口述（音声）で教えられた。独語や英語は単語・構文のdefinitionがはっきりした言語でscienceに向いている。医学の共通言語は英語であることより，若者には英語に通暁してほしいと心から願う。少しだけでも両言語を身につけ得たことが，思い返すに医学の世界で生きた僕を支える背骨であった。

今なぜ耳（音）の物語か

日本語は叙事的ではないが，叙情的には最高の言語で，母音が多く音声的にも美しい。よき成功体験から得られた自己確信力を通底音にして生きてきたが，体験のほとんどは叙情的な耳の物語として残っている。巻頭言に何をうだうだ！と言われそうであるが，医学に生きる若者には，できればスマホやPCの叙事的世界から離れ，物事を叙情的に捉えてほしいとの一心で書いた。妄言多謝

目　次

○題　　字……安　井　敏　之
○写　　真……笠　井　謙　二
○青藍会総会開催のご案内
○巻　　頭　　言……荒　瀬　誠　治
○徳島大学医学部長就任挨拶……赤　池　雅　史…… 1
○徳島大学病院長就任挨拶……香　美　祥　二…… 1
○徳島大学病院卒後臨床研修センターの活動報告……安　倍　正　博…… 2
○青藍会奨励賞の授与（平成30年度医学研究実習ポスター発表優秀者）…… 3
○定年退任教授挨拶……苛　原　　稔…… 4
福　井　　清…… 4
○新入生歓迎会…… 5
○青藍会賞論文募集…… 9
○支　部　紹　介……10
○支 部 だ よ り
東　京　支　部……上　田　　茂……12
近　畿　支　部……播　村　佳　昭……13
奈　良　支　部……野　中　家　久……14
兵　庫　支　部……楢　林　　勇……15
岡　山　支　部……宇　野　昌　明……16
○会　員　通　信
ポプラ会会報　第88報・第89号……四　宮　孝　昭……17
徳大５期生の忘年会……齋　藤　　元……19
六期会の同窓会報告……野　瀬　富　夫……19
12期生同窓会（徳大41会）……橋　本　卓　樹……20
続・卒後50周年記念同窓会に出席して……渡　辺　圀　武……21
16期生同窓会報告……鈴　木　率　雄……22
『第17期生・平成最後の同窓会』……髙　島　玲　子……23
今年も咲きました（同期の桜から青藍会の桜へ）……村　田　　豊……25
全人的医療～ Hinohara-ism の視点から……板　東　　浩……25
2019年は２回の同窓会を……本　田　壮　一……26
学生時代の思い出（１）……野　瀬　富　夫……27
原稿・写真をお待ちしております……28
俳　　句……小　谷　雄　二・雫　　俊　一・真　鍋　正　広……29
○留　　学　　記
Seeing is believing……中　村　真由子……30
SPUP での留学を通して……水　口　貴香子……30
○病　院　紹　介
鴨　島　病　院……浅　野　　登……32

○徳島大学病院新任教授紹介……早　渕　康　信……33
○MD-PhDコース卒業生近況報告……34
○準会員だより
　医学科学生としての折り返し……秋　澤　聡　秀……35
○青藍会の動き
　青藍会出身教授一覧……36
　青藍会会費納入状況……37
　会費納入のお願い……38
　会 員 の 異 動……39
　医学部65期卒業生（平成31年３月卒業）……40
　伝　　言　　板……41
　物　　故　　者……42
○第36回青藍会・医学科講演会開催のお知らせ……43
○青藍会会報のスリム化；徳島大学医学部，徳島大学病院に関するデータの割愛について……44
○投　稿　規　定……45
○事務局からのお願い……46
○青藍会ホームページへのアクセスはGoogle検索がスムーズです！！……47
○編　集　後　記……勢　井　雅　子……48

徳島大学医学部長就任挨拶

医学部長就任あいさつ

徳島大学医学部長
赤　池　雅　史（医学部31期）

この度，丹黒章医学部長の後任として，平成31年４月１日より第27代徳島大学医学部長を拝命いたしました。誠に光栄に存じますとともに，国立大学法人を取り巻く厳しい環境の中，その責務の大きさを強く感じております。

教育面では，平成30年度に医学教育分野別評価を受け，国際基準に基づく教育の質保証に取り組んでいます。リサーチマインドの育成を目指して，これまでも約10か月にわたる研究室配属を行ってきましたが，AO入試「四国定着研究医型」も新たに開始しました。また，青藍会の皆様のご支援も得て，四国を中心とする関連医療機関での学外実習を新たに始める等，診療参加型臨床実習の充実にも取り組んでいます。研究面では，生命科学・医療の教育研究機関が蔵本地区に集約している環境を活かすとともに，理工学部等との医工・医光連携研究等，徳島大学全体の強みを生かした取り組みを進めています。

医学部はその歴史と教育研究環境の強みを生かし，地域と世界を繋ぐ高等教育機関として，地域医療人材の育成とともに，世界に発信できる研究の推進と研究医の育成に取り組む所存です。青藍会の先生方には，今後ともご指導ご鞭撻のほど，何卒よろしくお願い申し上げます。

徳島大学病院長就任挨拶

病院長就任にあたって

徳島大学病院長
香　美　祥　二（医学部26期）

平成31年４月１日付けで徳島大学病院長に就任いたしました26期生の香美祥二です。本学卒業後は小児科学教室を中心に歩んでおり，現在，小児科学分野教授を併任しています。この度は，青藍会の皆様に病院長就任のご挨拶をさせていただきます。

さて，本年度，新しい元号のもと地域医療構想にも沿った病院改革を進めて行く所存です。本院の喫緊の課題は，１.安定した病院経営，２.高度専門診療の充実，３.さらなる地域医療との連携強化です。特に，データベース（ベンチマーク指標）の経営戦略を立案し，複数の診療科・部が協働した医療ニーズに応えるセンター系医療を速やかに整備いたします。

新時代の徳島大学病院を支えるのは思いやりのある優れた若手医療人です。高い知識，技術，豊かな人間性を習得し発展できるよう医療教育やキャリア形成支援に努め，本院のチーム医療を牽引する人材の育成に尽くします。世界に誇れる高度医療，臨床教育，医学研究を実践する魅力的な大学病院をめざしたいと思います。本院を受診される患者さん・家族と病院職員のことを一番に考え精一杯頑張りますので，青藍会の皆様には何卒ご支援の程宜しくお願い申し上げます。

徳島大学病院卒後臨床研修センターの活動報告

卒後臨床研修センター長
安　倍　正　博（医学部30期）

青藍会ならびに会員の先生方からは，当院の研修医へのご指導ならびに卒後臨床研修センターの活動に対しご協力と暖かいご支援賜り，誠にありがとうございます。

今年度のセンターのメンバーは，私と副センター長の西京子特任准教授（脳神経外科），飛梅威特任助教（循環器内科），田中久美子特任助教（消化器内科）と，河北直也特任助教（食道･乳腺甲状腺外科）の５名の教官と４名の事務スタッフです。スタッフは研修医との心の交流に努め，より良い研修環境を構築するために一丸となり活動をしております。お陰で研修医が仲良く元気に切磋琢磨しながら研修していることが印象的です。

徳島大学病院卒後臨床研修センターの近況をご報告させていただきます。平成31年３月の徳島大学病院医師卒後臨床研修管理委員会にて研修医27名の研修終了が認定され，３月25日には修了式を執り行いました。研修を修了した研修医からは喜びの声とともに，お世話になった研修病院の指導医の先生方への感謝が述べられておりました。昨年度は研修プログラムの評価の中で改善すべき課題として，「研修医の教育的な行事への参加や院内研修会・講習会への参加の向上」があり，研修医への指導を強化しましたが，十分に改善されており，各診療科での研修医に対するご指導とご配慮にも感謝いたします。このような研修に対する課題を抽出し研修医と共有するために，毎月行なっている「卒後臨床研修センター運営委員会」には研修医の代表者に参加して頂いています。研修医からの要望や意見をリアルタイムに取り上げ，研修医と委員の間の双方向の意見交換の場となり，研修の改善に繋がっております。研修医の学会発表は，当センターの研修プログラムの中で力を入れているものの一つですが，研修期間中に修了者全員が発表することができました。院内の各診療科の関係の先生方には発表のご指導を賜りまして大変有り難うございました。この場を借りて改めてお礼を申し上げます。研修医はよい経験ができ，今後の励みになったものと思います。

この４月より，修了者のうち23名が徳島大学病院および県内の関連施設で専門医研修プログラムの専攻医として様々な分野の専門研修を開始しています。平成31年度は１年目の研修医を22名（うち徳島大学卒が16名）迎えました。２年目の研修医は26名で，現在計48名の研修医が当院のプログラムで研修しております。１年目の研修医のうち，14名が徳島大学病院で，残りの８名が研修協力病院で研修を開始しました。平成30年度から開始した「総合メディカルゾーン重点研修プログラム」は，県立中央病院との融合研修を取り入れた全国的にも類を見ない魅力的な研修プログラムですが，新しく２名が参画してくれました。２年目の３名とともに，県内の各臨床研修施設でお世話になりますがよろしくお願い申し上げます。本プログラムの研修医がより多様な症例を経験し，幅広い視野と診療能力を体得できるよう，研修医自身および両病院で指導をして頂いた先生方のご意見をもとに，本プログラムをより良い形へと進化させたいと思います。

当センターは，良い意見は幅広く取り入れ，柔軟で行動力のある運営を行い，人間として優れた元気な医師が多く育成できるように，研修医の皆様方を全力でサポート所存ですので，今後ともご指導･ご鞭撻を賜りますよう，何卒宜しくお願い申し上げます。

臨床研修修了者による謝恩会

青藍会奨励賞の授与（平成30年度医学研究実習ポスター発表優秀者）

青藍会奨励賞を受賞して

医学科３年　今田友理香

この度は青藍会奨励賞を頂き，誠にありがとうございます。自分の疑問や興味に従って研究を進める面白さと研究の大変さを実感することができました。ご指導してくださった研究室の先生方に心から感謝いたします。この経験で培った考え方や姿勢をこれからの勉強にも活かしていきたいと思います。

医学科３年生　久保　美和

発表会当日は発表者と座長を兼任させていただきました。携わった研究はお盆などの休日や台風の日も登校が必要なもので苦労も多かったですが，できる限り多くを学びたいという希望に応え，研究室の方々にとても丁寧にご指導いただき，大きく成長することができました。ありがとうございました。

医学科３年　坂尾祐佳子

この度は青藍会奨励賞に選出いただき，有難うございます。研究実習にあたり，ご指導頂いた先生方，サポートしてくださった研究室の方々に感謝いたします。自分の知識次第で結果から考えられること，気付けることが大きく違うことを痛感しました。研究を通して得た思考力や忍耐力などを生かし，また，勉学に励める環境にあることへの感謝を忘れず，今後も努力していきたいと思います。

医学科３年　佐藤　勇樹

この度は，青藍会奨励賞に選出していただき誠にありがとうございます。この研究室配属を通して未知のことを解明していくおもしろさを実感することができ，自分自身にとってかけがえのない経験になりました。今後もこの経験を活かし一層努力していきます。

医学科３年　津代　　海

この度は青藍会奨励賞という栄えある賞を賜りましたことを大変光栄に思います。研究室配属が始まったころは何一つ分からず先生方に聞いてばかりでしたが，少しずつ手技を覚え，自分のものにし，自分で考えながら実験を進めていく過程はとても楽しく充実したものでした。このような経験をさせてくださった先生方や同じ研究室の仲間には心から感謝いたします。今後もこの経験を糧に，より一層努力したいと思います。

医学部３年　中田　真由

この度は青藍会奨励賞に選んで頂き，大変嬉しく思います。このような素晴らしい賞を頂けたのも熱心にご指導頂いた先生方，支え合った友人のおかげです。

約９ヶ月の配属期間中，なかなか結果が出ず落ち込むときもありました。しかし結果が出たときの喜び，同時に突き詰めていくことの楽しさはなにものにも替えがたいものでした。この貴重な経験で得たものを大切に，これからより一層医学に励んで行きたいと思います。

定年退任教授挨拶

産科婦人科学教授の退任によせて

徳島大学医歯薬学研究部長
苛　原　　稔（医学部25期）

平成13年（2001年）から約18年間務めた徳島大学教授を定年退任することになりました。昭和54年（1979年）に産科婦人科に入局してから40年間にわたり，医学部・病院でお世話になり，心より御礼申し上げます。この間，青藍会の皆様には，公私にわたりご支援くださり，多様な仕事をさせていただき光栄に思っています。

教授就任後は，国立大学独立法人化，医師初期研修必須化，医師の都会集中，また産婦人科医師の全国的な減少傾向など，荒波が次々に押し寄せて来た時代でしたが，幸いにも66名に入局していただき，素晴らしい仲間に恵まれて，忙しくも有意義な時間を過ごすことができました。

2004年から副病院長，2011年に病院長，2013年から医学部長，医歯薬学研究部長を務め，運営管理の面でも活動の場をいただきました。特に，医学部基礎・臨床研究棟の改修，病院の西病棟改築と外来棟の基本設計を担当したのが思い出となっています。また，医学部長時代には，青藍会から医学部の施設や教育機器の寄付をいただき，改めて御礼申し上げます。さらに，東京，近畿，兵庫支部などにお招きいただき，各支部会員の皆様と親しくお話しする機会を得ましたことも楽しい思い出です。

退職後は専任の医歯薬学研究部長として，医学部・病院の発展に少しでも貢献できればと思っています。これからも宜しくお願いします。

先端酵素学研究所 教授退任に際しまして

徳島大学副学長
福　井　　清

桜花咲き競う候を迎え，夢と希望に胸ふくらませる卒業生と初々しい新入生の姿が入れ替わる蔵本キャンパスでありますが，青藍会の諸先生におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

振り返りますれば，24年間にわたりました徳島大学での研究と教育の毎日は，青藍会員の皆様のご支援とご指導を頂き，若き会員であります学生達との熱き交流の日々で彩られています。人生の中で最も多感でドラマティックに大きく変身をとげ，成長する学生会員の皆様のかけがえのない時間を身近で共有でき，多くの貴重な出会いを得ましたことは，大学教員としての天職を得ました私の大きな喜びとするところでございました。

とくに研究室配属医学研究実習で，ほぼ一年にわたって基礎医学研究に邁進してくれました学生との学びの日々は感激と興奮に満ちた毎日でありました。さらに，その学生さんの中からM.D.-Ph.D.コースの学生として大学院博士課程に飛び入学した志高い学生さんが生まれましたことも，有難い研究生活でありました。

また，硬式庭球部，陸上部，スキー部の活気溢れるプレーと流れる汗と涙に多くの感動を与えられ，FLS，書道部の部員と語学と文化の発信力を錬磨しましたことを思い返しますと，青藍会の皆様に，ただただ感謝の念を捧げるばかりであります。

この４月からは，副学長として全学の国際交流を担当することとなりました。今後ともどうぞ宜しくご指導，ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

青藍会の皆々様のご健勝と益々のご発展を祈念申し上げ，御礼の挨拶とさせて頂きます。

“From my teachers I have learned much, from my colleagues still more, but from my students most of all.”（Babylonian Talmudより）

平成31年３月吉日

新 入 生 歓 迎 会

日時：平成31年４月５日（金）12：50～13：20
場所：医学部第一臨床講堂

桜満開の晴天の下，青藍会主催の新入生歓迎会が開催された。新入生114名（男子72名女子42名）は，アスティとくしまで挙行された平成31年度徳島大学入学式の後，蔵本キャンパスに移動し，今年も熱心なクラブの勧誘活動を行うたくさんの先輩から熱い歓迎を受けながら会場へ晴れやかに入場した。青藍会副会長玉置俊晃先生の祝辞に続いて，谷憲治先生，西京子先生から温かな歓迎のことばが述べられ，最後に新入生を代表して川野永遠さんが謝辞の意を表し，和やかな雰囲気の中，盛会裡に終了した。

新入生（平成31年度準会員）への祝辞

新入生の皆様へ

青藍会副会長
玉　置　俊　晃（医学部23期）

新入生の皆様，徳島大学医学部への，ご入学おめでとうございます。厳しい入学試験の難関を突破して徳島大学医学部に入学できたことに，皆様だけでなくご家族の皆様も大きな喜びに包まれていると思います。本当におめでとうございます。

私は，1971年の春に徳島大学に入学しました。子供の頃からの夢であった医師になるための，最初の関門を突破できて非常に嬉しく晴れ晴れした思いで，大学生活を start させたことを昨日のように覚えています。昨年３月末までは，徳島大学医学部の教員として33年間医学教育と基礎医学研究に従事してきました。教員として過ごした33年間は，皆様の先輩方の教育に携わってきました。そのなかで，強く感じたこと２点に関して，本日はお話したいと思います。

新入生の皆様に伝えたいことの第１点目は，本日，一緒に入学した，現在ここに一緒に居る仲間と，是非，良き人間関係を構築して下さい。同級生との良き人間関係は，人生の宝になります。医学部の同級生とのお付き合いは，ほぼ一生のお付き合いになります。又，６年間一緒に過ごすために，各自の性格や長所・短所も同級生の仲間にはほとんど知られることになります。長所も短所も理解した上で，何かと相談に乗ってくれたり，知らないことを教えてくれる仲間は非常に有り難い存在になります。現在の医療活動は決して１人では完結できません。多くの仲間とのチーム医療が求められます。医学・医療の分野で活動するためには，多くの人々の力を借りることになります。チーム医療の中で，問題が起こったり自分が知らないことに出会って困った時に，最も気軽に相談できるのが同級生です。是非，６年間の医学部生活で多くの同級生と良い人間関係を構築して下さい。また，同様に，同級生の次に頼りになるのが医学部の先輩や後輩であり，クラブ活動の先

輩や後輩です。医学部医学科の同窓会組織である青藍会は，徳島県下のみならず全国各地で活動しています。皆様が，徳島以外の土地で医学・医療活動をするときも，青藍会のメンバーは皆様を強力に支援します。

２点目は，学生時代には，医学界以外の社会との接点を増やして，大きく社会への視点を広げることの重要性を認識して下さい。徳島大学は総合大学です。医学部以外の友人がいると医学・医療活動に集中している時も，自分が関与する社会や生活の幅が広がり，幅広い視点で医学・医療を考えることが出来ます。私にも，大学時代に出来た友人関係で，今でもお付き合いさせていただいている土木関係・化学分野・ＩＴ関連・小学校や中学校の先生・製薬会社の研究員など多くの仲間が，今も私の生活に大きな刺激や潤いを与えてくれています。スポーツや芸術の活動で，超一流の人々と知り合いになることも良いでしょう。ボランティア活動や地域の町おこしで活躍している人々，行政で活躍している人々等と知り合うのも良いでしょう。医師や医療関係者以外の人々との付き合いは，医療や医学の現場で何か問題に突き当たった時に，視点の異なる解決策や対応策の発見に役立ちます。是非，学生時代に医学とは異なる分野の友人を見つけてください。

最後になりましたが，新入生の皆様が徳島大学にて心身ともに健康で，素敵な６年間を過ごすことが出来ますことを祈念申し上げて，私の祝いの挨拶にしたいと思います。

満開の桜に迎えられて

徳島大学病院総合診療部特任教授
谷　　憲　治（医学部28期）

徳島大学医学部医学科の新入生の皆さん，この度はご入学おめでとうございます。今年の入学式は，徳島市内の満開の桜の時期と重なりまして，大学職員や先輩学生だけでなくキャンパスの桜の花たちも皆さんのご入学を祝福しているようです。ただいま，ご紹介いただきましたように，私は徳島大学病院総合診療部に勤める谷憲治と申します。皆さんは，医療の世界に総合診療という領域があることをご存知でしょうか。診療科の種類というと，内科，外科，小児科，産婦人科，眼科など，様々な領域が浮かんでくるでしょうが，その中のひとつとして総合診療科があります。患者さんの症状や性別，年齢にこだわらず，どのような患者さんに対しても対応できる能力を備えた医師が勤務し，またそういった医師を育てる部署，それが総合診療科（部）なのです。医学生である６年間は，基礎医学から臨床医学まで幅広い医療の世界を学ぶ期間であります。徳島大学病院の総合診療部は２年前に設置された新しい部署ではありますが，幅広い領域において医療の基本を教えることで皆さんと深く関わってまいりますので，よろしくお願いします。

さて，皆さんは本日入学式を迎え，これからどのような大学生活を送っていくか，心踊る気持ちでいるのではないでしょうか。医学の勉強に頑張ろう，という気持ちとともに，どのような部活動やアルバイトをやっていこうか，ボランティア活動にも興味がある，など自由度の高い大学生活の過ごし方をワクワクしながら考えていることでしょう。将来，優れた医師になるためにも自分を高めるために有意義な体験をしっかり行ってほしいと思います。ただ，大学生活では，自由度が高いということで，これまでは学校の先生や家族の方々がたててくれていた道筋を，これからは自分自身で見つけていく必要があります。では，自分の道の進むべき道をどのようにして選択していったらよいのでしょうか。そのような皆さんに私は２つの言葉を送りたいと思います。

一つ目は，論語にある孔子の言葉「内に省みて疚（やま）しからざれば，それ何をか憂え何をか畏れん」です。この言葉の意味は，「自分自身の気持ちに疚しいものがないのであれば，迷わず畏れずやっていけ」というものです。何かやってみたいことがあった時，それはやってよいことなのかどうか，人から批判されるのではないだろうか，と悩んだ時に，もしその行動に対して自分自身に疚しい気持ちが微塵もないのなら，自信を持ってやっていけばよいという教えです。逆に，疚しいところがあるのなら，その行動についてもう一度考え直した方がよい，ということです。

二つ目は，「継続は力なり」という言葉です。これは，皆さんもよく聞く言葉だと思いますが，さまざまな能力をしっかり身に着けるために大切なことです。いろんな刺激を受けて，物事を始めることはよく経験しますが，大切なことはそれを継続することです。いろんなことに手を付けていくが，すぐに熱がさめて止めてしまう人がいますよね。いったん始めたことで，自分自身にプラスになると思ったことは，やり遂げるということが大切であり，それは将来の自分にとってプラスになるでしょうし，やり遂げたということで自信にもつながっていきます。

本日の入学生の皆さんは，将来，医師になるという共通の目標を持っています。ただ，その進路は，内科，外科などの様々な診療科から選択できますし，基礎医学領域での研究，教育活動，保健業務などの社会医学領域や医療政策に関わる選択肢もあります。医学生の６年間は，皆さんが将来どのような選択をするにしても，その基礎となる力をつけておいてもらいたいものです。私は，皆さんには，将来の一生かけて医師として自分自身の中に富士山のような山を築いてもらいたいと願っています。これからの学生時代の６年間はその富士山となる土台の部分を築いておいてほしいと思います。皆さんは富士山の素晴らしさは何でしょうか，と聞かれたらどう答えますか。多くの人は富士山の素晴らしさは日本一の高さであると答えるでしょう。皆さんには自分自身が選択した道において富士山のような日本一のレベルを目指しておいてほしいと思います。しかし，急いで高さだけを積み上げようとしてはいけません。焦って高くしていくと途中で高さに耐え切れなくなって崩れてしまいます。富士山の姿をもう一度想像してみてください。富士山の麓には大きく広がる裾野と呼ばれる土台があります。富士山のような高い山を築き上げるとしたら，裾野の部分に一番時間と手間がかかるのではないでしょうか。この蔵本キャンパスの裏には，以前映画化もされた徳島市のシンボルである眉山という山があります。この眉山は標高300m 足らずの低い山で，どこが頂上かもわからないなだらかな起伏をしています。皆さんは，まずは６年間の医学生時代に自分自身の中にぜひ眉山のような山を築いてください。それは将来，自分自身の領域で日本一高い山を築き上げるための，すなわち，日本や世界でトップを目指すための礎になることでしょう。

皆さんは，入学と同時に先輩たちから様々な部活動やサークルへの勧誘を受けることと思います。ぜひ，自分に合っていて，充実した大学生活を送ることができ，また，将来の自分の糧になるようなクラブを選んでほしいと思います。そのクラブの中の一つに「T-CoM地域医療研究会」というサークルがあります。そのクラブは，私が部長を務めておりますが，徳島県内の地域医療機関を定期的に視察することで，１年生の時から地域医療に親しむ活動を行っています。また，阿波踊りの連（地医輝連，ちいきれん）を結成して踊ったり，スダチ狩りなどの徳島の文化や自然と親しむ活動にも取り組んでいます。他の体育会系の部活動との兼部も可能なので，ぜひ入会する候補の一つに上げてもらいたいと思います。

私は，これから皆さんとは地域医療や総合診療に関する講義や実習の現場でお付き合いをさせていただくことになりますが，何か困ったことや相談などがあったらいつでも気軽に声をかけてください。それでは，これからの皆さんの充実した学生生活を祈念してお祝いのご挨拶とさせていただきます。本日は，本当におめでとうございました。

意志あるところに道は開ける

徳島大学病院卒後臨床研修センター
副センター長（特任准教授）
西　　京　子（医学部37期）

皆様，徳島大学医学部医学科へのご入学，おめでとうございます。

徳島大学病院卒後臨床研修センター　副センター長の西です。この度青藍会よりご指名いただきましたので，お祝いのご挨拶をさせていただきます。私も皆さんの先輩にあたり，平成３年に徳島大学医学部を卒業いたしました。

私どもの卒後臨床研修センターでは，医師免許取り立ての１年目２年目の若手医師（研修医）の教育・管理をしています。皆さんは入学されたばかりですので，まだ卒業後についての明確なビジョンを持たれている方は少ないかもしれませんが，医学・医療の道に進まれるという方向性は同じだと思います。皆さんの将来の選択は想像以上に開かれています。また医師になっても，年代により医師としての生き方が変化してきます。

私の医師人生も年月と共に随分変わりました。医学部卒業後は診療科医局にダイレクト入局という時代でしたので，私は学生時代に徳島大学脳神経外科の初代女医になる道を選びました。今年も徳島大学

脳神経外科には新たに１人の女医さんが誕生し，同門には私を含め女性医師が５人います。どの分野においても，今は性別問わず活躍する場や新たに開拓していく機会はたくさんあると思います。私は臨床をするのも大好きですし，専門医取得後は大学院に入り研究し医学博士を取得して留学もいたしました。カナダのモントリオールにあるマギール大学のモントリオール神経研究所に２年留学させていただきましたが，私は学問よりも多文化交流を多いに楽しんだのではないかと思います。帰国後も様々な経験をさせていただき，今は若手医師育成という教育に携わる立場におります。教育という仕事も若い方の未来を背負っていますので，情熱というパワーを持ち続けることが大事だと日々実感しています。

平成20年度から研修医教育にかかわっております私から皆さんにお願いがあります。チーム医療という言葉をご存知だと思います。一人の患者さんに複数のメディカルスタッフ（医療専門職）が連携して治療やケアに当たることですが，大学病院では患者さんやご家族を中心に，医師，看護師，リハビリ（理学療法士，作業療法士，言語聴覚士），また栄養士や薬剤師，医療ソーシャルワーカー，ときには臨床心理士さん，歯科医師・歯科衛生士，事務（メディカルクラーク）などいろいろな職種の方が関わっています。そのチーム医療を推進するためには，重要な３つの視点があります。コミュニケーションと情報の共有化，チームマネージメントです。

研修医は患者さんを含め様々な方々にご指導を受けながら成長して参りますが，相手をおもいやる気持ちをどうやってうまく伝えるかという表現力は，医師になってから身につくものではなかなかありません。是非これからいろんな方と交流する機会を積極的に持っていただければと思います。できれば，医学部の枠を超えた，年齢や国籍など問わない人たちとの出会いを楽しんでいただければありがたいです。

本日ここにいらっしゃる皆さん全員に，これから素敵な出会いがたくさんありますよう心から願っています。今後のご活躍を応援いたします！

新入生代表謝辞

青藍会賞論文募集

2019年度青藍会賞論文募集

2019年度青藍会賞論文を下記のとおり募集します。

本賞は，青藍会会員による学術研究の発展と奨励のために，若手研究者の優れた業績に対して授与するものです。奮ってご応募下さい。

1．応　募　資　格

審査対象論文発刊日に42才未満の青藍会正会員

但し，2019年度までの会費完納入者であること。

2．審　査　対　象

2019年１月から2019年12月までの１年間に医学関係学術専門誌に発表された医学論文（１人１編とする）。但し，博士号論文及び博士号申請予定論文は除く。共著論文であるときは，筆頭著者とする。選考では，徳島大学で主として行われた研究であることを重視し，過去の研究歴も考慮します。

3．応　募　締　切

2020年１月27日（月）（応募締切り後は提出書類の変更を認めません）

4．応　募　手　続

提出書類は，

① 申請書（別紙様式１）※

② 略歴（別紙様式２）※

③ 主指導者の推薦状

④ 論文別刷り　10部（コピー可）

⑤ 論文内容要旨800字以内　10部（コピー可）

⑥ 提出論文に関係のある参考論文（５編以内）の別刷り　各10部（コピー可）

⑦ 業績一覧（誌上発表）　10部（コピー可）

なお，同一推薦人が複数者を推薦する場合は推薦順位を付けること。

※申請書，略歴の様式は事務局（電話：088-633-7109　内線2601）にご請求下さい。
詳細は事務局までお問い合わせ下さい。

5．選　　考

青藍会会長から委任された選考委員会が行う。

6．受　賞　者　数

若 干 名

7．青藍会賞の授与

賞状及び研究助成金50万円を青藍会通常総会開催日に授与する。

8．受　賞　講　演

受賞者には対象論文内容に関する講演発表を総会当日に行って頂きます（30分程度）。

青　藍　会

留　学　記

中　村　真由子
水　口　貴香子

Seeing is believing

中　村　真由子（医学部65期）

2018年度，６年生の５月に１ヶ月，ハノーファー医科大学に留学させていただきました。留学のきっかけはいくつかありましたが，その中でも４年生の後期に，「百聞は一見にしかず」という言葉を実感する体験をしたことが１番の理由です。恥ずかしながら，大学生４年になってもなかなか医師になることへの実感がわかず，将来のためになるようなこともして来ず，ふわふわと日々を過ごして来ました。英語も特別興味がないまま来たため，英語の勉強も同時に始める必要がありました。それから１年弱経った頃に学校推薦を受けられるかの面接がありましたが，枠に入ることができず，自費で行かせていただくことにしました。

留学先では，以前の留学体験記でも述べましたが，４週間神経内科で１人の先生につき実習をしました。朝の放射線科との合同カンファレンスから始まり，ラウンド，新患の身体診察の見学など，言葉が分からないながらも，診察の仕方など色々と学ぶことが出来ました。

正直に言うと，ドイツ語は全くわからないし，英語も自分から中身のある質問が出来るレベルではなく，なんとか聞き取るのが精一杯で，語学の準備不足のために言いたいことを言えませんでした。

また，ドイツでは３，４年生から少しずつ臨床実習が始まります。そのため，ドイツの６年生はすでに自分の進もうと考えている科にインターン（３－６ヶ月）で来ていて，実際に先生の前で患者さんに問診を取り，診察をして，必要があれば採血やルート確保，髄液・血液検査などをスムーズにこなしていて，ただ見学してばかりの自分が情けなく思いました。４週間の間に，少しずつ担当してくださった先生と距離は縮まりました。（会話では難しかったですが）。英語の話せる患者さんに問診を取ったり，何とかカルテのドイツ語を読み解いて症例レポートを書きましたが，どちらも未熟な出来で，この体験自体が沢山の人の好意によって可能になったことだなと反省しました。

この経験を通じて感じたり学んだことは沢山あり，助けてくださった先生方や両親に本当に感謝しています。ハノーファー医科大学で得た医学的知識は多くないかもしれないとも思うし，６年の５月はマッチングも迫ってきており，マッチングの準備を優先するべきかもしれないと思ったこともありました。この留学は自分にとって背伸びだと思い，迷いや後悔もたくさんありました。

しかし，この経験をさせて貰えたことは私にとって大切なことでした。今もまだ，将来については模索中ですが，これからも色々なことを自分の目で見て感じていきたいです。

最後に，沢山のことを教えてくれた友人たちに感謝します。（S.R，K.S，H.E，K.M，K.Y）。本当にありがとうございました。

SPUPでの留学を通して

水　口　貴香子　（医学科４年）

山々の緑も，雨に打たれて色濃くなりました。青藍会の皆さまにおかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。この度は青藍会会報に寄稿する機会をいただき，ありがとうございます。

私は2018年12月に２週間ほどフィリピンのトゥゲガラオにあるSt. Paul University Philippines（以下SPUP）で英語研修や病院見学をさせていただく機会をいただきました。

SPUPは同じ敷地内に小学校から大学，教会などがあり，子どもから大人，シスターたちがいて徳島大学とは全く違う雰囲気です。さらにクリスマスシーズンだったので，学園全体でPaskuhanというイベントを朝から夜まで劇や様々なコンテスト，移動遊園地などが開催されていてとても活気がありました。毎朝７時マライアキャリーから始まるクリスマスメドレーが１時間くらいかけて私を起こしてくれました。ここで物質的に豊かではありませんが精

神的に豊かな毎日を過ごさせていただきました。

まず，驚いたのはエネルギーです。

“あれ”がないから何かできないのではなく，今いる環境，今あるものから“あれ”に代わるものを作り出したり，その時のベストを尽くしている印象を受けました。例えば私はもみの木のようなツリーを購入してクリスマスをお祝いするものだと考えていました。しかしトゥゲガラオではペットボトルやトイレットペーパーの芯など様々な，手に入るものを用いてツリーを作って街中を彩り，クリスマスを街全体でお祝いしていました。病院内には人々が寄付したサンダルでできたクリスマスツリーがあり，１つ１つにメッセージカードがついていたことに感銘を受けました。

また，学生たちも学年を超えて Paskuhan を作り上げていました。小学生から高校生みんなでミュージカルを披露し，スポーツやディベート大会では学年に関わらず正々堂々勝負していました。

私なら軽んじてすぐ手を抜いたり諦めたりする場面でも，気を抜かず１つひとつを真剣で丁寧に取り組んでいる姿に感動しました。条件が揃ってなくても，そのことに「心を込める」ことで意味も与えたり，人の心を動かすことができるのだと改めて感じました。

次に私の印象に残っているのは宗教です。

至るところに十字架が飾ってあり，何をしていてもキリスト教の存在を感じました。常に誰かに見られているような感覚があり，心なしかピンと背筋を伸ばして過ごした気がします。

病院のカルテには宗教を記入する欄がありました。病院内の礼拝堂では毎日，朝と夕方にミサがあり，来院者や医療従事者で礼拝堂内では座りきれないほど人が集まっていました。私も最終日に参加し，分娩室の見学でお会いした妊婦さんの安全を祈らずにはいられませんでした。

また，シスターと行動する機会もいただきました。ベトナムから来た医者でもある，Sr Elizabeth はかつてベトナムの山間部で原住民に医療活動を行なっていたそうです。奉仕や清貧，勤勉さなど多くのことを彼女から学びました。クリスマスイブの日，キャンパスを２人でこっそり抜けて街で１番大きい教会のミサに行った夜は忘れられません。

最後になりましたが，実りある留学の機会を与えてくださった国際センターの福岡先生，保健学科の谷岡先生，SPUP の皆さんとの出逢いに深く感謝申し上げます。今度は医学を習得して Doctor としてフィリピンを訪れたいです。

SPUP 医学科1年生の薬理学の講義にもお邪魔しました

病　院　紹　介

病院長就任ご挨拶
“艱難汝を玉となす”

鴨島病院長
浅　野　　登（医学部26期）

ご挨拶が遅くなりましたが，平成30年４月１日より新しく徳寿会鴨島病院病院長に就任致しました浅野でございます。早いもので一年の歳月が過ぎようとしております。私は昭和55年徳島大学医学部卒業以来，脳神経外科医として主に急性期病院にて仕事を行ってまいりました。最近，10年間は鴨島病院の近くである吉野川医療センターの副院長として近隣の病院，開業医との橋渡し的仕事を任され，いろんな地域の先生方と中部臨床研究会の世話人ならびに医師会ゴルフ等を通して親密なお付き合いをさせていただきました。鴨島病院とは，急性期病院と回復期病院との関係にて病院連携を通じて３年間ほど顔の見える関係を築いておりました。

鴨島病院は昭和53年開設以来，40年以上経過した回復期病棟(87床)，医療並びに介護療養病棟(181床)を合わせ持つ268床の慢性期病院であり，付属施設として，老健施設『長寿園』（100床），グループホーム『のぞみ』（2 unit 36部屋），グループホーム『プラチナ鴨島』（2 unit 36部屋）を併せ持っております。本院の特色は回復期病棟を中心としたリハビリに力を入れている点であり，リハビリのスタッフから回復期リハビリ病棟を中心とした新しい鴨島病院の未来像を熱く聞かされたことにより，この病院に希望と進歩の予感を感じたことが病院長就任の要因となったものと考えております。

病院長といたしましては，公平無私をモットーとして，職員間の融和を図り，わだかまりのない職場にしたいと考えております。その上で，できるだけ多くの職員の皆様方にヒアリングを行い，目的意識を共有することにより一致団結，只今進行中の新病院建設に向けて前向きに邁進していく覚悟でございます。現在，今後慢性期病棟を多く抱える当院には収益性，運営面から新しい取り組みを行わざるを得ません。具体的には新病院では回復期リハビリ病棟を増設し，87床から120床へ増やすとともに，介護並びに医療療養病棟の介護医療院への転換（90床）に取り組みたいと考えております。

地域性から，回復期病棟の患者供給は吉野川医療センターに頼るところが多く，その連携をさらに堅固なものにしてゆく努力を行わなければなりませんが，今後は徳島大学，県立中央病院，徳島市民病院等にも病院のアピールを行い，安定した患者確保を目指してまいりたいと考えております。さらに，全国的にも言われておりますが，介護並びに看護職員の確保は当院にとっても喫緊の課題と言えます。職員のモチベーションを保つために時代に応じた労働環境の改善を模索し，離職率の少ない病院を目指すとともに先進性の高いリハ機器の導入を行い，リハビリの質的向上を心がけたいと考えております。職員全体が現状に甘んじることなく，前向きに10年先を見据えて病院にどのような貢献をなしうるか広く意見を求め，具体的な組織改革を進めていかなければなりません。職員の一層の奮起と団結を求めたいと考えます。

今し方，イチロー引退会見をテレビで見たところです。イチローは，自分は監督の器ではない，人望がないと謙遜しておりました。しかし，輿望を担えるのはイチローのような自己管理に厳しく努力を怠らない人間と考えます。地道な努力が苦手な私ではありますが，私自身，常日頃から冒頭に掲げた“艱難汝を玉となす”という言葉を，座右の銘として心がけております。情熱を持って臨み，苦労を重ねて得られた成果は必ずや大きな喜びを生むものと確信いたしております。今後とも鴨島病院に対し，皆様方のご協力，ご支援を強くお願い申し上げまして病院長就任のご挨拶といたします。

徳島大学病院新任教授紹介

徳島大学病院 地域小児科診療部
早　渕　康　信（はやぶち　やすのぶ）
（昭和39年８月４日生）

略　　歴

平成元年３月　　徳島大学医学部医学科卒業
平成元年５月　　徳島大学医学部附属病院 小児科医員
平成２年６月　　厚生連高知農協病院 小児科医員
平成３年６月　　厚生連阿南共栄病院 小児科医員
平成４年６月　　国立高知病院 小児科医員
平成５年６月　　徳島大学医学部附属病院 小児科医員
平成６年６月　　国立療養所香川小児病院 循環器科医員
平成８年４月　　徳島大学医学部附属病院 小児科医員
平成11年８月　英国　University of Leicester, Department of Cell Physiology and　Pharmacology, Research fellow
平成13年９月　徳島県立中央病院 小児科医長
平成17年６月　徳島大学医学部附属病院 小児科助手
平成18年４月　徳島大学医学部附属病院 小児科講師
平成24年５月　徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部小児医学分野　准教授
平成30年４月　徳島大学病院地域小児科診療部　特任准教授
平成30年10月　徳島大学病院地域小児科診療部　特任教授
（現在に至る）

就任のご挨拶

特任教授
早　渕　康　信（医学部35期）

平成30年10月1日付けで徳島大学病院地域小児科診療部の特任教授を拝命致しました。青藍会の皆様にご挨拶申し上げます。わたくしは徳島大学医学部を卒業後，当時黒田泰弘教授が主宰される小児科学教室に入局致しました。その後，小児科全般の診療，小児救急医療，周産期新生児医療などに携わりながら，小児循環器疾患の診療を中心として仕事を続け，特に肺循環，右心不全の病態生理，機能解析と治療応用の研究を行ってまいりました。

我が国の小児医療には，小児救急・新生児医療および高度専門医療のように集約すべき方向へ向かう分野がある一方，それら急性期疾患で救命された重症患児に対する継続した診療，つまり小児保健・福祉，学校保健，在宅医療など各地域における予防や慢性疾患への取り組み，地域小児科診療を充実させるという大きな課題があります。わたくしは今後とも徳島大学病院での小児疾患診療に加え，地域小児科診療の発展のために尽力していく所存であります。青藍会の先生方におかれましては，今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう，よろしくお願い申し上げます。末筆になりましたが，青藍会の益々のご発展をお祈り申し上げ，就任の挨拶とさせて頂きます。

MD-PhDコース卒業生近況報告

徳島大学 MD-PhD コース魅力発信セミナー／第４回近況報告会を開催しました

石澤（井澤）有紀（医学部54期）

2019年２月16日（土），徳島大学 MD-PhD コース魅力発信セミナー／第４回近況報告会を開催致しましたのでご報告申し上げます。

例年通りまずは同窓会総会にて2018年度の同窓会としての活動報告及び次年度の活動計画について協議しました。続いて，学部学生や教員の先生方にもご参加いただき近況報告会を開催いたしました。今回初めての試みとして，外部講師をお招きし「徳島大学 MD-PhD コース魅力発信セミナー」として開催致しました。大阪大学微生物病研究所で特任准教授として研究室を主宰しておられる岩崎正治先生に「Pros and Cons で考える MD-PhD コース選択の決断」とのタイトルでご講演いただきました。岩崎先生は九州大学医学部の MD-PhD コース第１期生です。他大学における本コースの現状や医学教育・カリキュラム等の様子を伺い知ることができ，大変新鮮な情報を得ることができました。また，本学では卒業生の多くが臨床医としての道を選択している中，卒後すぐに海外に渡り基礎医学研究で研鑽を積まれてきたご経験や，その決心に至った心境の移り変わりなど，とても貴重で興味深いお話でした。続いて本学卒業生であります，倉敷中央病院病理診断科専攻医，赤池瑶子先生に「どんな医者になりたい？―MD-PhD コースがくれた可能性―」と題しご講演いただきました。昨春初期研修を終えられ，ついに専門性の高い道へと足を踏み入れ始めたところです。ここに到るまで，いかに謙虚かつ冷静に，ご自身のキャリアを見つめて様々な選択をされてきたかがよくわかるお話でした。学生や現役生にとって身近な先輩のお話はとても現実味があり，参考になったご講演でした。会の最後には参加者から，「年に一度，立ち止まって自分のキャリアを振り返るいい機会になっている」と，嬉しいご感想をいただきました。様々なロールモデルを知り参考にしていただくのと同時に，年に一度のキャリアの棚卸しとしても，是非引き続き多くの方に本報告会に足を運んでいただけると幸いです。

最後になりましたが，本会開催にあたりご支援いただきましたAWAサポートセンターおよび医学部後援会に御礼申し上げます。また，青藍会の先輩諸先生方には日頃より格別のご支援を賜り，心より感謝申し上げます。MD-PhD コース同窓会会員は，皆，悩み，もがきつつも，確実に力をつけながらそれぞれの道を歩んでいます。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

交流会での集合写真

準会員だより

医学科学生としての折り返し

秋　澤　聡　秀（医学科４年）

初めまして。この度青藍会会報の準会員だよりにて文章を書かせていただきました秋澤聡秀です。まず初めにクラスの紹介をさせていただきます。私たちの学年は現在，約100人が在籍しております。クラスの仲間たちについて，あくまでも私個人の感想とはなりますが少しだけ述べたいと思います。特徴ですが，普段の座学にて講義室で授業を受ける際は男女がはっきりと分かれた状態でそれぞれ席に座っており，あまり男女同士でコミュニケーションを取っているようには一見思えません。また，同性同士でも基本的に一緒の席に座っている仲の良い人としか喋ることがありません。しかし実際は，３年次の終盤（１月～３月）にて始まったコース別のチュートリアルにおいて普段あまり喋ることのない人達同士で班を組んでも自然とコミュニケーションを取り，目の前の課題に取り組めています。

また，チュートリアルでは，日頃の授業内容をしっかりと自分なりに頭に入れ，少しでも問題解決に役立てようとする積極的な姿勢がみられ，医学科学生としての自覚をしっかりと持っており，熱意を持って日頃から物事に取り組んでいるような素晴らしい人たちが多いように思います。このコミュニケーション能力と物事への取り組み方は将来医師として働く際に少しでも役に立つものだと思います。

さて，ここからは医学科４年について書きたいと思います。これまでの１年生から３年生までの間に細胞生物学，生化学，生理学，病理学などの様々な基礎医学を学んできました。４年生ではこれらを基盤とし，循環器，呼吸器，消化器などといった本格的な臨床の内容をコース別に学んでいきます。またこれまでと違い，講義室での座学のみでなく，先に述べたチュートリアルと呼ばれる，クラスが約10個の班に分かれ，与えられたそれぞれのコースで学んでいる内容についてのシナリオから病気の診断や治療法，患者との関わり方などを自分たちで考え，学ぶというものがあります。そのため，今までと比べて実臨床に即した医学の知識を学べます。今まで学習してきた内容を活かす場面が多く，今まで以上に興味が湧くことが多いと同時に，自分の勉強不足な点を思い知らされることも多いため，医学の勉強に奮闘する日々を過ごしております。

また，この学年の後半には病院での臨床実習に向けての共用試験（CBT, OSCE）が待ち受けています。CBT では今まで，そしてこれから学んでいく知識をフルに活用しなければならず，そのため分量が非常に多くなるため今まで以上の勉強が必要になります。OSCE は手技の試験であるため，今までの筆記試験とは異なる実技試験ならではの大変さもあると思われます。こちらも仲間たちと共にしっかりと練習を重ねて試験に臨みたいと思います。

最後になりますが，タイトルにもしている通り医学科学生としての折り返し地点に来ました。しっかりと日々の学習を積み重ね，知識を定着させ，臨床実習の始まる５年生へと繋げていきたいと思います。

青藍会の動き

平成30年11月１日以降

平成30年11月22日　青藍会広報委員会（青藍会事務室）
12月17日　青藍会会報第92号発行
平成31年１月21日　講演会実行委員会（青藍会館小会議室）
２月６日　青藍会財務健全化委員会（青藍会事務室）
２月21日　青藍会役員会（青藍会館小会議室）
３月22日　第67回卒業式　医学部65期生に卒業記念品贈呈
（モバイルバッテリー・青藍会会報第91・92号・ようこそ青藍会へ・青藍の碑）
３月27日　青藍会賞選考委員会（青藍会館小会議室）
４月５日　徳島大学医学部医学科新入生歓迎会（第一臨床講堂）

青藍会出身教授一覧

氏名	期	大学名	講座	氏名	期	大学名	講座
田村　禎通	17	徳島文理大学	保健福祉学部	寶學　英隆	32	奈良先端科学技術大学院大学	保健管理センター
木内　淳子	18	滋慶医療科学大学院大学	医療安全管理学	川人　宏次	32	自治医科大学	心臓血管外科
泉　啓介	19	徳島文理大学	保健福祉学部	吉栖　正典	33	奈良県立医科大学	薬理学
香美　祥二	26	徳島大学	小児科学	二川　健	33	徳島大学	生体栄養学
横関　博雄	26	東京医科歯科大学	皮膚科学	岡久　稔也	33	徳島大学	地域総合医療学
長谷川好規	26	名古屋大学	呼吸器内科学	久保　宜明	34	徳島大学	皮膚科学
北畑　洋	26	徳島大学	歯科麻酔科学	西岡　安彦	34	徳島大学	呼吸器・膠原病内科学
東　敬次郎	26	徳島文理大学	看護学科	西良　浩一	34	徳島大学	運動機能外科学
斧　康雄	27	帝京大学	微生物学	橋本　一郎	34	徳島大学	形成外科学
丹黒　章	27	徳島大学	胸部・内分泌・腫瘍外科学	志馬　伸朗	34	広島大学	救急集中治療医学
峠　哲男	27	香川大学	健康科学	篠原　勉	34	徳島大学	地域呼吸器総合内科学
川上　照彦	27	吉備国際大学	理学療法学科	髙橋　章	35	徳島大学	予防環境栄養学
内藤　毅	27	徳島大学	国際センター	松田　純子	35	川崎医科大学	病態代謝学
鶴尾　吉宏	28	徳島大学	顕微解剖学	相澤　徹	35	環太平洋大学	体育学部
下泉　秀夫	28	国際医療福祉大学	医療福祉	堀井　新	35	新潟大学	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
金山　博臣	28	徳島大学	泌尿器科学	篠原　尚	35	兵庫医科大学	上部消化管外科
重光　修	28	大分大学	救急医学	早渕　康信	35	徳島大学	地域小児科診療部
糟谷　英俊	28	東京女子医科大学	脳神経外科	安友　康二	36	徳島大学	生体防御医学
谷　憲治	28	徳島大学	総合診療部	矢野　聖二	36	金沢大学	腫瘍内科/腫瘍外科
上田　夏生	29	香川大学	生化学	井原　義人	36	和歌山県立医科大学	生化学
橋本　雅章	29	国際医療福祉大学	脳神経外科学	田中　克哉	36	徳島大学	麻酔・疼痛治療医学
宇野　昌明	29	川崎医科大学	脳神経外科学	岩田　貴	36	徳島大学	医療系基盤教育
江原　寛昭	29	滋賀大学	障害児教育	松崎　健司	36	徳島文理大学	診療放射線学科
伊藤　裕司	29	純真学園大学	医療工学科	住谷さつき	36	徳島大学	特別修学支援
横越　浩	30	四国大学	生活科学部	上原　久典	36	徳島大学	病理部
橋本　健志	30	神戸大学	保健学研究科	川人　伸次	37	徳島大学	地域医療人材育成
勢井　宏義	30	徳島大学	統合生理学	粟飯原賢一	37	徳島大学	糖尿病・代謝疾患治療医学
近藤　和也	30	徳島大学	臨床腫瘍医療学	小山　文彦	37	東邦大学	産業精神保健・職場復帰支援センター
前田　健一	30	徳島大学	保健管理分野	中村　教泰	38	山口大学	器官解剖学
安井　敏之	30	徳島大学	生殖補助・更年期医療学	遠藤　逸郎	38	徳島大学	生体機能解析学
森　健治	30	徳島大学	子どもの保健・看護学	友竹　正人	39	徳島大学	メンタルヘルス支援学
加藤　真介	30	徳島大学	リハビリテーション部	桑原　知巳	39	香川大学	分子微生物学
安倍　正博	30	徳島大学	血液・内分泌代謝内科学	前川　洋一	39	岐阜大学	寄生虫学・感染学
石堂　一巳	31	徳島文理大学	健康科学研究所	奥村　裕司	39	相模女子大学	健康栄養学科
上野　修一	31	愛媛大学	精神神経科学	松浦　哲也	39	徳島大学	脊椎関節機能再建外科学
赤池　雅史	31	徳島大学	医療教育学	大塚　秀樹	40	徳島大学	画像医学・核医学
鈴江　毅	31	静岡大学	教育学部	山田　博胤	40	徳島大学	地域循環器内科学
三上　靖夫	31	京都府立医科大学	リハビリテーション医学	居村　暁	43	徳島大学	地域外科診療部
原田　雅史	32	徳島大学	放射線医学	大藤　純	43	徳島大学	ＥＲ・災害医療診療部
高橋　吉孝	32	岡山県立大学	栄養学科	伊藤　弘道	45	鳴門教育大学	特別支援教育

第36回青藍会・医学科講演会開催のお知らせ

第36回青藍会・医学科講演会を開催いたします。多数のご参加をお待ちしています。

講　師　独立行政法人国立病院機構 理事
名古屋医療センター院長

長谷川 好 規 先生

演　題　「徳島大学での学びと現在の私」

座　長　徳島大学大学院医歯薬学研究部
呼吸器・膠原病内科学分野教授
西　岡　安　彦　先生

日　時　令和元年11月２日（土）　15時30分～17時
場　所　徳島大学藤井節郎記念ホール（蔵本キャンパス）

〔ご略歴〕

1980 年 3 月　徳島大学医学部医学科卒業
1987 年 7 月　米国カリフォルニア大学医学部ロサンゼルス校研究員
1994 年 11 月　名古屋大学第一内科助手
2002 年 7 月　名古屋大学呼吸器内科講師
2007 年 5 月　名古屋大学大学院医学系研究科呼吸器内科学教授
2012 年 4 月　名古屋大学大学院医学系研究科副研究科長
2013 年 4 月　名古屋大学医学部附属病院副病院長
2016 年 4 月　名古屋大学総長補佐
2019 年 5 月　独立行政法人国立病院機構 理事
名古屋医療センター院長

〔主な専門分野〕 呼吸器内科学，肺の臨床腫瘍学，呼吸器アレルギー学

〔主な学会活動歴〕

第30回　日本医学会総会　2019中部　総務委員長
第116回（2019年）日本内科学会総会会長
日本呼吸器学会理事長
第60回　（2020年）日本呼吸器学会学術講演会会長
日本肺癌学会理事（2008～2018年）
日本呼吸ケア・リハビリテーション学会理事
日本結核病学会理事

本講演会は徳島大学創立 70 周年記念事業「ホームカミングデー」を兼ねております

共催　青　藍　会
医　学　科
睦　眉　会
（保健学科同窓会）

※今後最新の情報については青藍会ホームページをご覧ください

青藍会会報のスリム化；徳島大学医学部，徳島大学病院に関するデータの割愛について

日頃より，青藍会の活動にご協力をいただきありがとうございます。

青藍会の財政が逼迫していることから，財務健全化委員会にて会報にかかる費用も見直すこととなりました。これを受けて広報委員会において掲載内容を検討後，役員会にて以下の事項が承認されました。

・徳島大学医学部，徳島大学病院に関するデータ等でそれぞれのWEBに掲載されている情報を青藍会会報から割愛する。
・割愛された情報は，青藍会ホームページ（https://www.seirankai-tokushima.jp/links.html）から閲覧できるようにリンクする。
・ホームページの閲覧が難しい場合や紙面による資料が必要な場合は，青藍会事務局へ連絡いただければ可能な範囲で対応する。

昨今はパソコンやスマートフォン，タブレット等の普及に伴いＳＮＳの利用やペーパーレス化が進んでおります。青藍会も電子化に取り組んでおり，青藍会会報も青藍会ホームページでもご覧いただけるようになりました。これにより経費削減が見込め，保管の省スペース化が可能になります。

以上の点につきまして，ご理解くださいますよう何卒お願い申し上げます。

広報委員会　橋本　一郎
財務健全化委員会　福島　泰江
青藍会会長　桜井　えつ

「青藍会総会出欠ハガキによる通信」は，次号から割愛することとなりました。今後は「会員通信」として掲載させていただきますので，ご寄稿をお待ちしております。
青藍会事務局　TEL 088-633-7109　FAX 088-633-3180
E-mail　seiran@tokushima-u.ac.jp

投稿規定

広 報 委 員 会

○ 原稿について

●必ず，文頭にタイトル，氏名・卒業期をご記載ください。
　例　タイトル ○ ○ ○ ○ ○ ○　　山　田　太　郎（医学部○期）

●**文字数は1,400字以内，写真は１枚でお願いいたします。**

●英数字は半角文字で，カタカナは全角文字で入力してください。

●原稿の文中に登場する氏名及び敬称については，スペースを入れずに記載してください。
（例　山田太郎君　　高倉健さん　　松下幸之助先生）

○ 原稿及び写真の送付について

●原稿送付は，可能な限りメール添付または電子媒体にてお送りください。
プリントされた写真については，郵送にてお送りください。後日，返送いたします。

●画像ファイルを送付される場合は，**原稿とは別に，JPEG ファイル等でお送りください。**
原稿（Word 等）に貼り付けますと，画質が悪くなります。
なお，画像ファイルの容量が大き過ぎますと届かないことがございます。容量を小さくして１枚ずつに分けてお送りください。また，**青藍会事務局からの連絡がなかった場合は，届いていないことが考えられますので，再度確認のご連絡をお願いいたします。**

○ 原稿の締め切り日を厳守願います

会報の印刷および製本には，原稿をお預かりした後，ゲラ刷り作成，校正，修正，編集会議等で２ヶ月ほどの時間を必要といたします。
締め切り日より遅れた場合は，次号の掲載になりますので予めご了承ください。

○ 編集作業について

●お送りいただきました原稿は語句などに関して広報委員会で校閲させていただきます。その結果，修正をお願いする場合もございますことをご了承おきください。

●用語や表記などの統一のために文章に手を入れることがございます。予めご了承ください。

○ 原稿校正について

●広報委員会で会報全頁のレイアウト等を校正後，製本前のゲラ刷りを作成しお送りさせていただきますので，著者校正をお願いいたします。

●**校正時の大幅な追記，削除等は，会報発行期日に影響いたしますので，ご遠慮くださいますようよろしくお願い申し上げます。**

事務局からのお願い

◆　個人情報の取り扱いについて　◆

平成17年から個人情報保護法が施行され個人情報は厳重に取り扱うことが求められています。青藍会事務局におきましても会員の個人情報は慎重に管理し，取り扱いにつきましては細心の注意を払っております。従いまして電話等での**会員情報の提供につきましては原則お断りをさせていただいております。**会員のプライバシー保護とトラブル防止のためより一層のご理解とご協力を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

電子化の昨今ではございますが，会員名簿を大いにご活用くださいますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

ご注意ください!!

なりすましのニセ電話について

最近「青藍会事務局の○○です。会費のことで・・・」という青藍会事務局事務員になりすましたニセ電話の事例が数件報告されております。

過去には「青藍会の○○です。」「医学部第○期卒の○○です。」「徳島大学の○○です。」「○○病院の○○です。」という同窓生や「青藍会のお荷物のことで・・・。」という宅配便業者になりすましたニセ電話の報告もございました。電話の内容によりますと青藍会に関する情報に詳しい場合がございます。

青藍会事務局では，突然の電話による会費のご案内や個人情報の照会はいたしておりませんので十分お気をつけくださいますようお願い申し上げます。勤務先及びご家族（帰省先）の皆様にも注意の呼びかけをお願いいたします。

青藍会事務局では電話によるご案内はいたしておりません。また電話による照会につきましてもお断りいたしております。

くれぐれもなりすましのニセ電話にはご注意ください！！

青藍会ホームページへのアクセスは
Google 検索がスムーズです！！

青藍会・徳島大学の最新情報は、ホームページをチェック！！

スマートフォン及び
携帯電話からの
アクセスは、以下の
QRコードをご利用
ください。

編　集　後　記

私たち医学部30期は今年度，全員が還暦以上になります。今年はクラス評議員より親切な高知県にいる同期生が７月14日（日），高知市で同窓会を開いてくれます。この場をお借りして，お礼申し上げます。昭和24年までの平均寿命が男女とも50歳代，数十年前までサラリーマン定年が55歳だったことを思えば，すでに長生きした気がしています。そうは言っても平成29年生命表によると，60歳の平均余命は男性23.72歳，女性28.97歳（平成29年の死亡状況から計算して，今60歳の人は，平均して男性は84歳まで，女性は89歳まで生きる？）もあります。さあ大変，と長生きリスクに備えるためのハウツー本がたくさんでているようですね。臨床に，研究に，精力的に頑張っておられる先生方にとって，還暦など，まだまだこれから仕事だ，と考えておられることでしょう。

とにかくたくさん忘れてしまって，自分の罪も，恥も，不寛容のせいでの不始末も忘れてしまったので，なんとか苦が少なくなっているようです。でも，大切な人のことも，大事だったはずの出来事や場所も忘れてしまっているので，そのことについても，この場をお借りしてお詫び申し上げます。もともと若い時から，もしかすると子供の頃から，出来事に対しての記憶の断捨離をしてしまう傾向はあったので，より酷くなっただけかもしれません。旅行記や昔のことを書ける人に対して感嘆し，最近はただただ別世界の才能として読んでいるのみです。いったい，編集後記をなんと心得ているのか，とお叱りを受けそうですが，このような繰り言も含めて，同窓会誌らしいと思っていただければ幸いです。

今回も大先生，諸先輩方，後輩の方々，責任ある立場で将来への展望や夢を語ってくださる投稿が多く，本当に感謝いたします。会員通信の「懐かしい同期の部分だけ読むよ。」という方も多いと思います。おかげさまで，無事，第93号青藍会会報をお届けできます。

今後とも青藍会の会員皆様のますますのご活躍，ご健勝をお祈りしております。

勢　井　雅　子（医学部30期）

非　売　品

青藍会会報第93号

令和元年６月10日印刷
令和元年６月17日発行

編　集　徳島大学医学部医学科同窓会青藍会
〒770－8503　徳島市蔵本町３丁目18－15
電話（088）633－7109（内線2601）
FAX（088）633－3180（青藍会事務室）
E-Mail　seiran@tokushima-u.ac.jp
URL　http://www.seirankai-tokushima.jp/
振替　01680－4－8671
ゆうちょ銀行 一六九店（169）
当座 0008671 青藍会

発行者　青藍会会長　桜　井　え　つ

印刷所　グランド印刷株式会社
徳島市万代町６丁目20－15　電話（088）622－8448